

## 令和元年度 第3回 豊田市男女共同参画推進懇話会会議録

- 日 時 令和元年9月18日(水) 午前10時00分～11時30分
- 場 所 とよた男女共同参画センター 21会議室
- 出席者 懇話会委員 石田路子(座長)、吉野まり子(副座長)、尾原洋子、  
斎藤万里、伊藤健一、若月めぐみ、大代知穂、古澤三秀、  
野村文子
  
- 事務局 生涯活躍部副部長 清水、市民活躍支援課長 濱田  
とよた男女共同参画センター 深谷、柳野
  
- 欠席者 松井 恒雄

### 1 開会

清水副部長挨拶

### 2 議事

#### (1) 第4次クローバープランの改定について(協議)

事務局が資料に基づき説明。

#### <発言>

A委員

④の事業「男女共同参画意識を育てる教育環境」はぜひ進めていってほしい。まだ固定的性別役割意識が根づいていない子どもにこそ、基本的な男女共同参画を浸透させていってほしい。

B委員

市民意識調査の結果から課題としてもあったが、介護の問題についてもっと力を入れて取り組む必要がある。

リカレント教育は「楽しく」の視点に繋がってくると思う。他市でも市民大学の事例があり、手法もいろいろあるが、市民が自分で考えて、自分で企画し、自分で人も集めている。ぜひ新プランに取り入れてほしい。

C委員

「男女共同参画」という表現は、今後どういうことばで表現するのか。

事務局

元々は「男女共同参画」を違う表現に置き換え、馴染みのない人にも分かりやすい表現とすることを目論んだが、今の段階では難しい。また、「男女共同参画」という表現に馴染んだ人には、この言葉のほうが分かりやすいという意見も多数いただいたこともあり、各団体へヒアリングした感触としては今後もこのことばで残っていく見込みである。

D委員	市民を主役にし、市民のアイデアを発表する場づくりが必要である。自分たちの活動の場を定期的につくり、団体同士のつながりをもたせる仕組みを行政ができると良い。団体数も少ないと思うためもっと活発になると良い。
E委員	D Vに関するニュースが昨今話題になっている。新プランではD V撲滅にさらに力を入れてほしい。
F委員	現在、コミュニティスクールの仕組みづくりをしており、地域の高齢者が非常に協力的である。高齢者は子どもから感謝されることが生きがいになっている。一方で、活動は男性中心の役割分担になりがちで、女性は割り振られた仕事をこなすような印象。女性でも力がある人はたくさんいるので活躍してほしい。今の若者にもまだまだ男女共同参画の意識が育っていないと感じる出来事もある。もっと若者世代に浸透してほしい。
G委員	年2回行う男女共同参画の学習には、男女共同参画に対する意識の高い人のみが来ているように思う。意識が高い人でない人たちがもっと気軽に来られるようになってほしい。
H委員	小学校に勤めているが、男女で分けることがあり、違和感がある。L G B Tがいるという前提で、学校もそれが当然であるという理解が増えると良い。
I委員	第4次プランの基本理念にある「誰もが楽しく豊かに暮らせる」の「楽しく」には主観的になるところがあり、非常に難しい。基本理念に加えて大切にしてほしいのは、一人ひとりが「誇り」を持って暮らせる社会。もし「誇り」を持てるなら、今苦しくても乗り越えることができるためである。 「高齢者 V S 働き世代」の対立構造にならないようにしたい。多世代の交流をすることで、お互いの考え方を理解する機会ができれば対立が生まれまいだろう。

## (2) 男女共同参画全国都市会議について (報告)

事務局が資料に基づき説明。

## (3) 事業実験評価について (報告)

事務局が資料に基づき説明。

## 3 その他

次回懇話会の開催説明。

## 4 閉会

濱田課長挨拶